

2015年6月16日

報道資料 150616

株式会社第一興商
学校法人梅檀学園
東北福祉大学

第一興商と東北福祉大学の共同研究サマリー

産学官連携によるDK エルダーシステムを導入した住民主体型活動の検証とカラオケルームの社会資源化に向けた調査研究

DK エルダーシステムを導入したカラオケルームは、今後さらに不足する『健康づくりの場や人材』への対応策として、地域住民に活用される可能性のあることが立証されました。

株式会社第一興商(東京都品川区 代表取締役社長 林 三郎:以下、第一興商)は、高齢者市場への取り組みとして、介護施設をはじめ公民館や老人福祉センターなどに対して、施設利用者の介護度の改善や、介護予防の一助となるべく、DK エルダーシステムを搭載したカラオケ機器の導入を推進しています。DK エルダーシステムは、音楽を使う、体を使う、目で観るといったプログラムの提供を通じて、高齢者の心と体を元気にすることができ、「運動・口腔・認知」など生活機能の維持・向上の効果が認められており、現在 16,600 力以上の施設に導入されています。

2010年4月より、第一興商は、学校法人梅檀学園東北福祉大学(宮城県仙台市 学長 萩野浩基:以下、東北福祉大学)と共同研究を行っており、DK エルダーシステムの効果検証を行ってまいりました。今般、2014年度(2014.6~2015.3月)の研究が終了いたしましたので、そのサマリー報告をいたします。

共同研究では、DK エルダーシステムを導入したカラオケルームにおける健康教室は、機能性・安全性を考慮した環境整備と、DK エルダーシステムを活用する人材の育成・確保、及び DK エルダーシステムの操作方法・運用方法等の対応を講じることで、カラオケルームが地域住民のための『健康づくりの場や人材』の確保に貢献できるという結果となりました。

また、DK エルダーシステムを活用したカラオケルームでのグループワークでは、グループワーク前後の心理的変化で改善効果がみられ、さらに介入前後では、脳の活動性の向上が示唆されました。

なお、人材の育成・確保では、2015年に誕生した『音楽健康指導士』の活動も期待できるものと考えます。

■研究概要

《研究目的》

DK エルダーシステムの導入による

- 地域住民の主体的な活動を推進する健康増進・介護予防活動支援手法の検証
- 稼働率の低い時間帯のカラオケルームが地域の社会資源として活用される可能性の調査

《研究内容》

調査研究の対象者は、健常高齢者で地域の一般住民 10 名とし、宮城県仙台市内にあるビッグエコー長町店(宮城県仙台市太白区)のパーティールームをフィールドとして、DK エルダーシステムを活用した全 15 回のグループワークを実施しました。

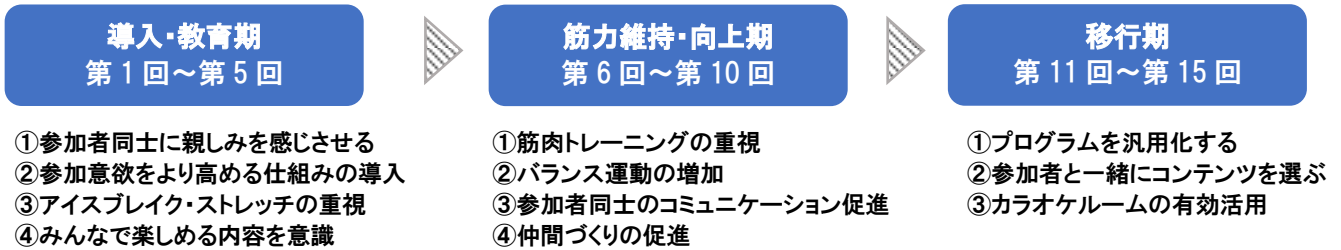
研究対象者 : 10 名(女性:10 名)
平均年齢 : 77.1 歳(最高齢 82 歳/最年少 68 歳)
基本チェックリスト : 6/10 名が閉じこもりあるいはうつに関する項目に該当



■カラオケルームを活用した住民主体型活動の検証

高齢者がカラオケルームを活用し、主体的に活動していけるよう全 15 回のグループワークにおいて以下のような展開を試みました。

《全 15 回のプログラム展開》



《参加者の様子》



なじみのある曲に合わせた体操



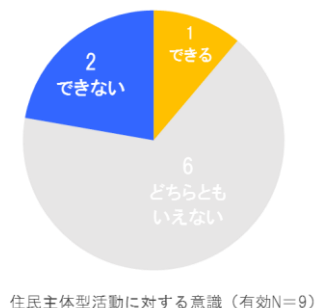
デモンストラクションにトライする参加者

《カラオケルームを活用した住民主体型活動に対する研究教室参加者の意識》

カラオケルーム及び DK エルダースystemを活用した教室を住民主体で継続していくことに対する、研究教室参加者の意識について報告いたします。

全 15 回終了後に、教室に参加した 9 名に対してカラオケルーム及び DK エルダースystemを活用した教室を住民主体で継続していくことができると思うかを問う、アンケート調査を実施いたしました。

その結果、カラオケルーム及び DK エルダースystemを活用し、活動を継続することに対して「できない」「どちらともいえない」に回答する方で約 9 割を占めていました。その理由として最も多い回答が「指導してくれる人がいないこと」次いで「仲間を集めるのが大変」「自分たちでは操作が難しい」という結果となりました。



「できない」「どちらともいえない」に回答した理由 (複数回答可) (N=8)	
指導してくれる人がいない	8 名
仲間を集めるのが大変	7 名
自分たちでは操作が難しい (難しそう)	4 名
料金システムが難しそうだから	1 名
継続するには、利用料金が高い	1 名
歩いて通える身近な地域でないから	1 名

このことから、DK エルダースystemやカラオケルームを活用して、高齢者が主体的な活動を継続していくためには、店舗スタッフなどの主体的な活動をサポートする人材の育成や高齢者自らが地域サポーターとして活躍できる仕組みづくりが必要であるという結果が見えてきました。

■カラオケルームの社会資源化に向けた調査研究

稼働率の低い時間帯(昼間)のカラオケルームを高齢者の健康増進・介護予防の場として有効に活用される可能性に関する調査を実施いたしました。自治体関係及び協力者と地域住民に対し、カラオケルームは健康増進・介護予防の場として、活用される可能性があると思うか、調査を実施しました。

《調査協力》

自治体関係及び協力者

- 自治体所属の保健師及び地域包括支援センター職員
- 介護予防運動サポーター

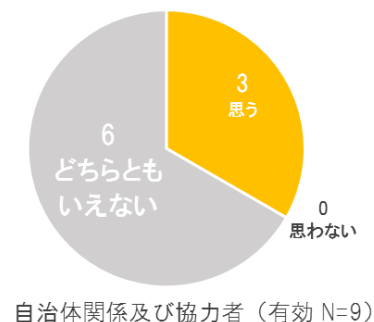
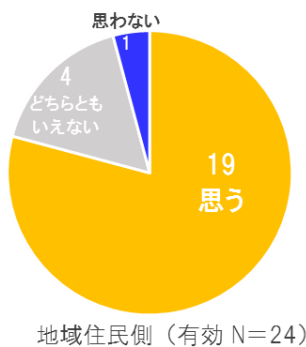
地域住民

- 研究教室参加者
- 介護予防自主グループに所属している方々

《調査結果》

アンケートから得られた結果は、以下の通りです。

●カラオケルームは社会資源として活用される可能性があると思うか



カラオケルームにおける健康教室について、実際に参加される地域住民はニーズを持っているという結果に対し、自治体関係及び協力者は「高齢者がカラオケルームを活用するイメージができない」等の理由により、消極的な意見が多くなっています。今後の課題として、カラオケルームにおける健康教室の事例の創出、認知普及が課題であると考えます。

4年の研究成果があるDKエルダーシステムを活用したグループワークをカラオケルームで実施すると、これまで以上に参加者の心理変化で高い効果が見られます。

■プログラムの有効性

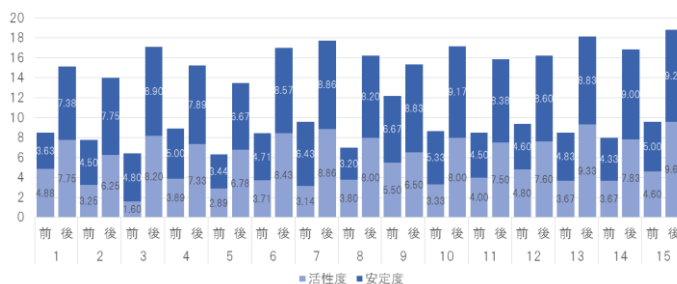
《心理状態と教室満足度アンケート調査結果》

毎回のグループワーク前後には、被験者の心理状況と教室満足度評価として、気分調査で広く引用されている二次元気分尺度を実施いたしました。

気分調査は、「活性度」と「安定度」を測る8項目の回答から「快適度」を算出し、平均値より変化尺度を評価しました。(※二次元気分尺度では、「活性度」と「安定度」より「覚醒度」を算出することもできますが、参考値となるため、今回の分析からは除外しています。)

全 15 回のプログラム実施前後のほぼ全ての回で「活性度」「安定度」「快適度」がグループワーク前と比較し、グループワーク後に有意に向上しました。特に「安定度」においては、全ての回で有意に向上しました。

このことから、カラオケルームにおいてグループワークを実施することで、心理的变化において、有意に効果があったことが示唆されました。



回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
N	8	8	10	9	9	7	7	5	6	8	5	6	6	5	5
活性度P値	0.018	0.023	0.000	0.000	0.003	0.002	0.006	0.008	0.348	0.016	0.021	0.115	0.002	0.042	0.002
安定度P値	0.019	0.002	0.001	0.002	0.021	0.022	0.059	0.098	0.048	0.026	0.004	0.031	0.023	0.000	0.000
快適度P値	0.011	0.007	0.000	0.000	0.006	0.005	0.006	0.041	0.108	0.017	0.004	0.022	0.005	0.002	0.000

今回の研究対象者は、基本チェックリストにて閉じこもりあるいはうつ等の該当者が多かったことから、ポジティブな心理変化を及ぼすカラオケルームにおけるグループワークは、各自治体の閉じこもり・うつ予防支援として、効果が期待され、介護予防に大きく貢献すると期待されます。

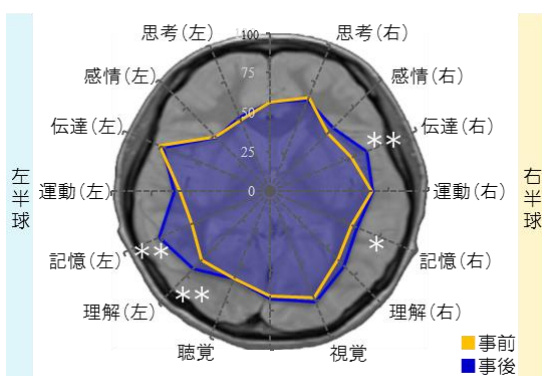
《SRI 脳番地診断結果》

脳の活動性評価として株式会社脳の学校(東京都港区 代表取締役兼社長 加藤俊徳)が開発した SRI 脳番地診断を実施しました。

SRI(Self Reporting Imaging の略)脳番地診断とは、問診票や課題に回答し、同社のもつデータに基づいて、異なる働きをする脳の部位(脳番地)ごとの活動性を評価する自己申告型の簡易脳個性検査です。個々人の経験などに基づいた最も得意な脳番地、成長率が著しい脳番地、老化している脳番地などをスコア化し評価するものです。対象者の得手・不得手のほか、生活習慣の改善などに繋げるための情報を得ることが可能です。

SRI 脳番地診断を用いて、全 15 回のグループワークの事前・事後の各脳番地スコアを比較し、DKエルダースystem導入教室における脳の活動性の向上を促すプログラムとしての有効性について検証を試みました。

その結果、介入前に比べて、介入後は記憶・理解・伝達系の 3 つの脳番地スコアが有意に増加しました。



脳番地	事前 (0-100)	事後 (0-100) [変化倍率]	有意確率
記憶系脳番地 (左脳)	53.6±22.9	68.5±14.0 [1.3倍UP ↑]	$p = 0.018$
理解系脳番地 (左脳)	61.3±18.0	75.6±9.8 [1.2倍UP ↑]	$p = 0.046$
伝達系脳番地 (右脳)	55.8±12.8	66.4±16.2 [1.2倍UP ↑]	$p = 0.044$
記憶系脳番地 (右脳)	55.8±8.8	59.7±6.8 [1.1倍UP ↑]	$p = 0.075$

このことから、DK エルダースystemを活用したプログラムは、懐かしい歌を思い出すことや新しい歌や体操を覚えることを通じて記憶を刺激する効果が見込めると考えられました。同様に、歌の歌詞やグループでの会話を通じて、言葉の理解に関わる働きも活発になる可能性が考えられました。また、歌を歌うことや映像を見ながら体を動かすこと、集団活動によるコミュニケーションといった自己表現の機会が、伝達力にも影響を及ぼすことが推測されました。

以上の結果から、DK エルダースystemを導入したグループワークを、カラオケルームにて展開することで、更なる成果が見られる結果となりました。今後は、機能性・安全性を考慮した店舗開発及び指導者の育成・確保、DK エルダースystemの操作方法・運用方法等の課題を克服した実践的・発展的な展開となっていくことを期待しています。

DK エルダースystem

音楽や適度な運動を組み合わせるセッションは、高齢者の心身の活性化や身体機能の維持・回復に大変効果的であるとの報告が各分野から数多く寄せられています。しかし、専門知識などが要求されるため、このようなセッションを高齢者の福祉・介護施設で実行することは、手軽にはできません。DK エルダースystemは、うたと音楽の効果を最大限に活用した健康維持・介護予防に役立つシステムで、簡単な操作で音楽と運動によるレクリエーションの時間を手軽に創り出すことができます。

音楽健康指導士とは

音楽健康指導士とは、一般社団法人日本音楽健康協会が認定する安全で効果的な「音楽健康セッション」のプログラム作成及び実践指導を行うことのできる資格です。

「音楽健康セッション」とは、「口腔・運動・認知」など生活機能の維持・改善に有効なコンテンツを組み合わせた「音楽」「体操」「映像」プログラムを通じて、高齢者の介護予防や健康増進を支援するものです。

*各社、組織名、商品名、サービス名などは、各社、各組織の商標または登録商標です。

*研究内容、実施時期は予告なく変更することがあります。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社第一興商 広報担当 門野坂／松下／仁井
TEL: 03-3280-2100 / FAX: 03-3280-2176

<http://www.dkkaraoke.co.jp/> (OFFICIAL)

<http://dk-eldersystem.com/> (DK ELDER SYSTEM)

学校法人梅檀学園東北福祉大学
社会貢献・地域連携センター 予防福祉健康増進推進室 担当 萱場／小田
TEL: 022-208-7790 / FAX: 022-208-7791

<http://www.tfu.ac.jp/research/cooperation/karaoke.html> (研究・社会貢献)

<http://www.tfu-ac.net/yfkc/index.html> (予防福祉健康増進推進室)